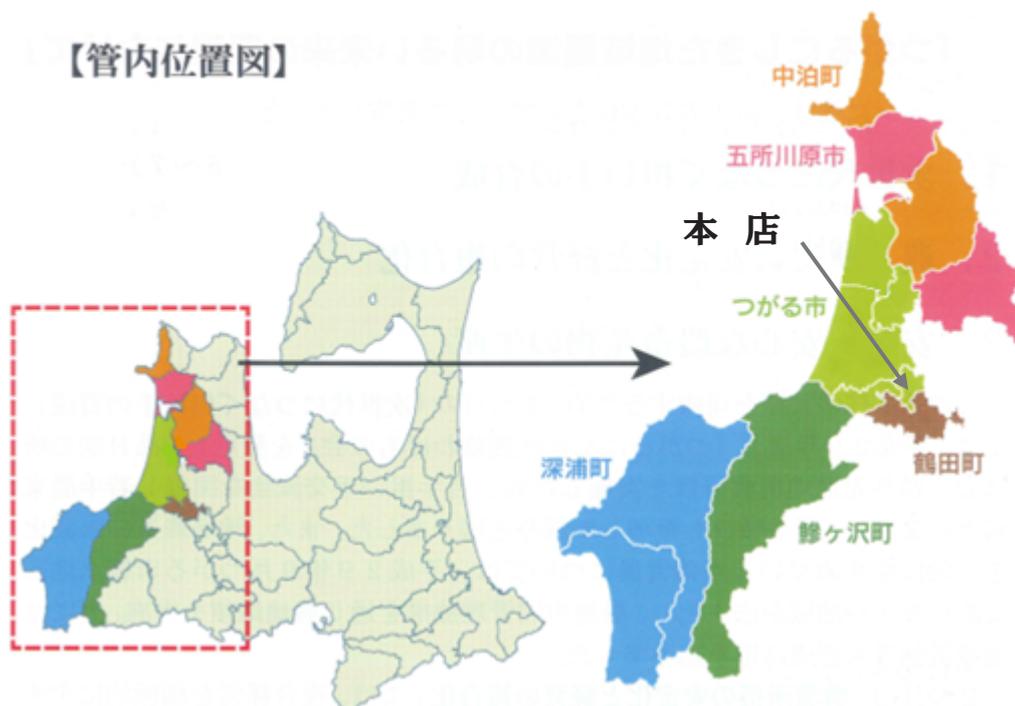


# 目 次

J A つがるにしきたの概要	1 P
第四次地域農業振興計画を振り返って	2 ~ 4 P
組合員意向調査結果	5 ~ 7 P
現状と10年後シミュレーション	8 ~ 9 P
第五次地域農業振興計画 営農ビジョン	10 P
地域農業振興計画 基本方針	11 P
1. 再生産可能な農業所得の確保	11 P
2. 担い手の育成と経営基盤の強化	12 P
3. 産地の維持と拡大を目指す事業展開	13 P
振興作物	13 P
組合員所得向上に向けたJ A 支援体制 (フロー図)	14 P
品目別農業振興方針	
米穀・畜産部門	15 ~ 16 P
やさい・花き部門	17 ~ 20 P
りんご部門	21 ~ 22 P
果実部門	23 ~ 25 P
支店別地域農業振興方針	
つがる白神支店	26 P
深浦事業所	27 P
つがる支店	28 P
富苑事業所	29 P
鶴翔支店	30 P
津軽北部支店	31 P
令和8年度作物別目標	32 P
作物別経営試算表	33 P
作物別労働時間	34 ~ 37 P

# JAつがるにしきたの概要 (令和5年3月末現在)

【管内位置図】



名 称 / つがるにしきた農業協同組合 (つがるにしきたのうぎょうきょうどうくみあい)

本店所在地 / 〒038-3104 青森県つがる市柏桑野木田幾世7番地4

事業地域 / つがる市、五所川原市、鯨ヶ沢町、深浦町、鶴田町、中泊町

事務所 / 本店・支店4・事業所6

組合員 / 11,795人 (正組合員9,173人、准組合員2,622人)

出資金 / 30億円

販売品販売高 / 114億円

役員 / 理事24人、監事5人

職員 / 235人

## 第四次地域農業振興計画を振り返って

事前の組合員意向調査では、農業経営上の大きな問題点として

「生産経費が高い」

「農業収入が少ない」

「労働力の確保」 が主にありました。

その他、営農指導員の積極的な巡回や知識向上を求める声もありました。

それを踏まえ、第四次地域農業振興計画（令和3年度～令和5年度の3カ年）では「**所得向上で地域農業の活性化と持続可能な農業の実現**」を営農ビジョンに掲げ、以下の3本柱を目標として実施しました。

1. 多様な担い手の育成・確保による地域農業の活性化
2. 組合員の所得増大と農業生産拡大への取り組み
3. 営農指導強化による組合員サービスの充実

多様な担い手の育成・確保による地域農業の活性化では、

若手担い手とJAとの接点を増やし、農業や地域における仲間づくりを支援するため設立した「わけもの会」の活動を、コロナ禍の落ち着きと合わせて数年ぶりに再開し、これを皮切りに今後も様々な活動を通じて担い手との親交を深めていきます。

また、生産現場の労働力不足を解消するため、労働支援の一つである無料職業紹介事業を通じて15名（R5実績）の働き手を組合員へ紹介しました。しかしながら、依然として労働力不足が続いていることから、省力化や機械化による労働支援以外の対応も合わせて検討していきます。

その他、大規模農家の経営基盤強化を図るべく法人化を各支店で推進し、4経営体（R5実績）の法人化に携わりました。設立後もそれぞれの法人へ支援を継続していきます。

**組合員の所得増大と農業生産拡大への取り組み**では、

重点推進作物として推進し、支援策で後押しした「シャインマスカット」は、1 ha 弱の作付面積から約2倍の2 ha 超え（R5実績）となり、普及拡大が図られています。

また、農薬資材の担い手直送や一括仕入れによる安価な水稻パイプハウスの供給が大きく伸び、一定のコスト削減効果があったものと見込んでいます。

しかしながら、生産資材など様々なものが値上がりとなったことで農家の経営状況は依然厳しく、更に近年の温暖化傾向により農作物への自然災害リスクや品質の低下が懸念されています。

引き続き、JAでは高品質で安全、安心な農畜産物の生産に努め、有利販売による所得の確保や省力化、低コスト農業を推進し、現在の物価高騰時代を乗り切るための対応を図っていきます。

**営農指導強化による組合員サービスの充実**では、

出向く指導体制の構築を図り、各指導員は巡回先リストを基にした訪問活動の実践と、組合員から頂戴した意見を経営陣へつなげ、対応できるものは速やかに対処することを目標に取り組みました。また、役員による担い手巡回も定期的に実施しました。

また、営農指導員のスキルアップを図るための各種研修会を仕掛け、組合員の付託に応えるJAの看板＝営農指導員となるよう引き続き、育成と指導に努めていきます。

一方、ICT活用による組合員向けサービスは一部で利用があるものの、全体に浸透はしておらず、次期計画では取り組みのテコ入れが必要であります。JA組織においても労働力が不足している今、業務効率化を図るために必須であります。

以上、それぞれの施策に取り組み、最終年度を迎えましたが全ての目標達成には至っておらず、農業者や生産面積の減少に加え、経営上の様々な問題に今直面しています。

JAとして地域農業を守るために必要な取り組みを継続し、現状を打開する新たな一手を打ってでることが必要であります。

≪第四次地域農業振興計画作物別目標及び実績（見通し）≫

単位【面積：ha 数量：t、頭(牛)、千本(花き)、元箱(りんご) 反収：kg】

作物名	第四次地域農業振興計画目標 (令和5年度)			令和5年度実績（見通し）		
	面積	数量	反収	面積	数量	反収
米	7,665	46,182	602	7,583	37,168	490
大豆	1,557	2,293	147	1,749	3,077	176
小麦	129	253	196	91	145	160
牛	—	—	—	—	260	—
にんにく	60	344	575	55	318	583
ブロッコリー	87	612	707	63	318	508
ねぎ	47	1,148	2,469	43	700	1,643
アスパラガス	47	144	310	41	81	200
トマト	25	2,103	8,376	19	1,305	6,762
ミニトマト	8	391	4,949	6	212	3,317
ながいも	56	1,351	2,413	39	812	2,104
ごぼう	42	1,050	2,500	34	850	2,500
とうもろこし	9	80	889	8	46	565
きゅうり	3	235	7,833	2	123	6,856
花き	3	1,088	—	4	665	—
りんご	—	465,000	—	—	285,000	—
すいか	35	1,760	4,972	33	1,557	4,718
メロン	20	408	2,071	19	363	1,939
シャインマスカット	1	8	913	2	5	282
スチューベン	12	216	1,800	13	145	1,115

## 第五次地域農業振興計画に伴う

# 組合員意向調査結果



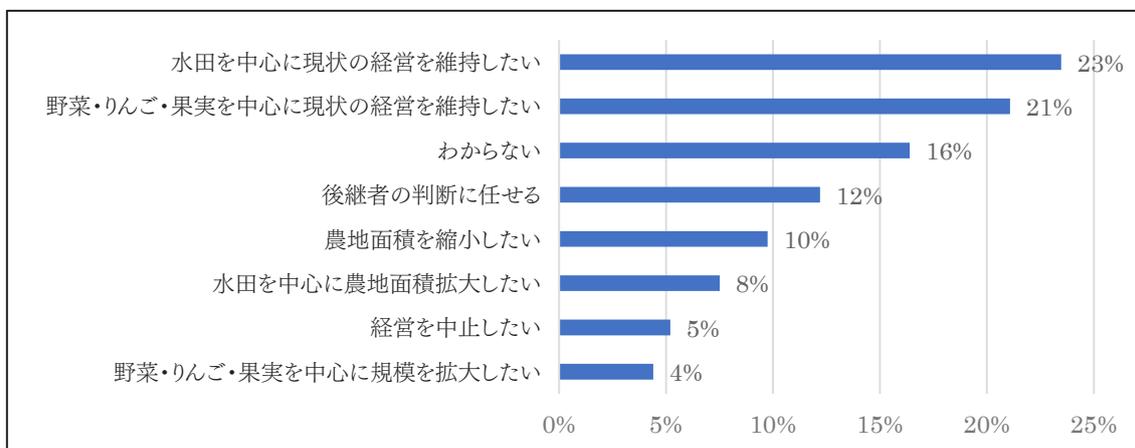
組合員意向調査の実施にあたり、生産者の皆様には

多大なご理解とご協力のもと、貴重なご意見を賜り深く感謝申し上げます。

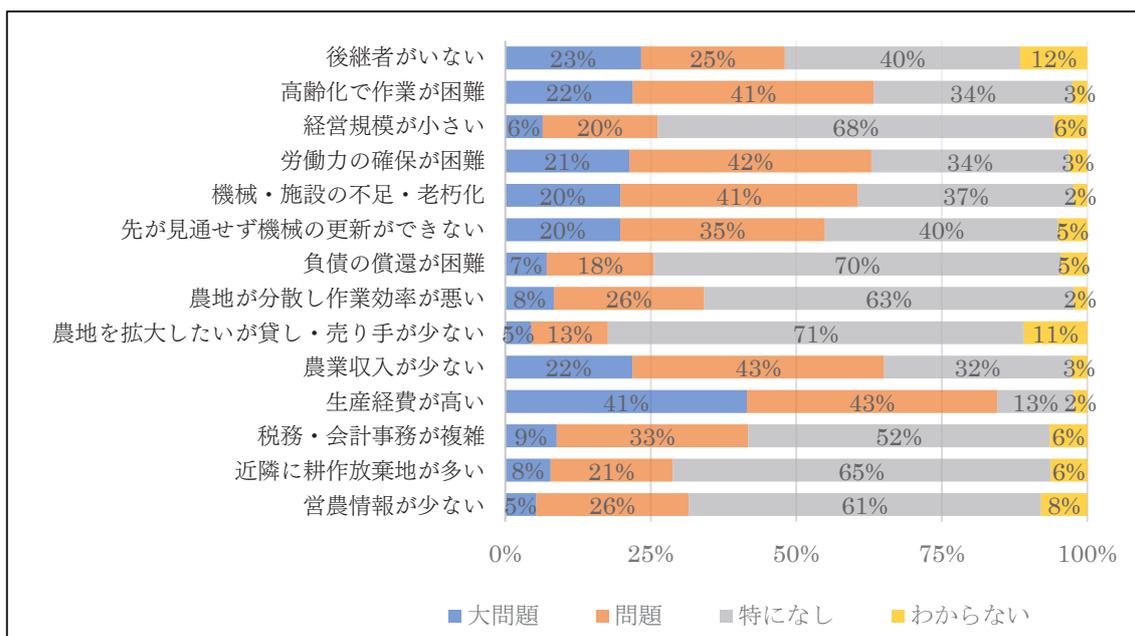
調査実施日：令和5年5月

《対象者数：生産部会員1,731名 回答数：1,432名 回収率：83%》

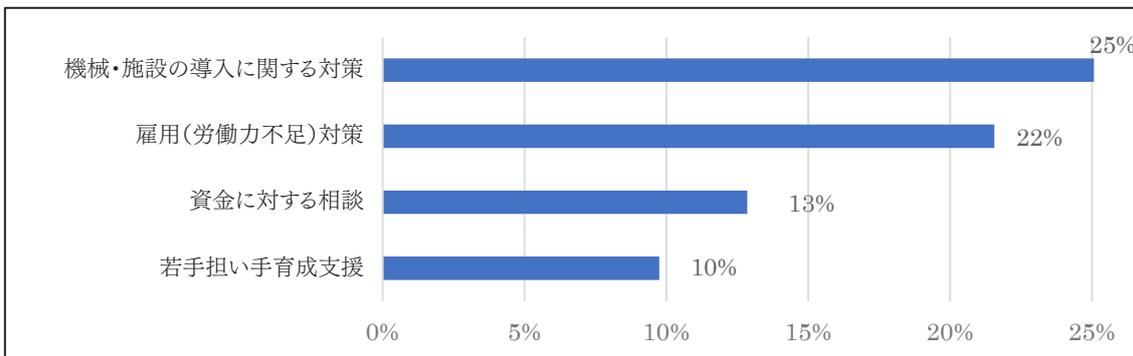
### 【設問】3年後の経営規模の将来意向についてお聞きします。



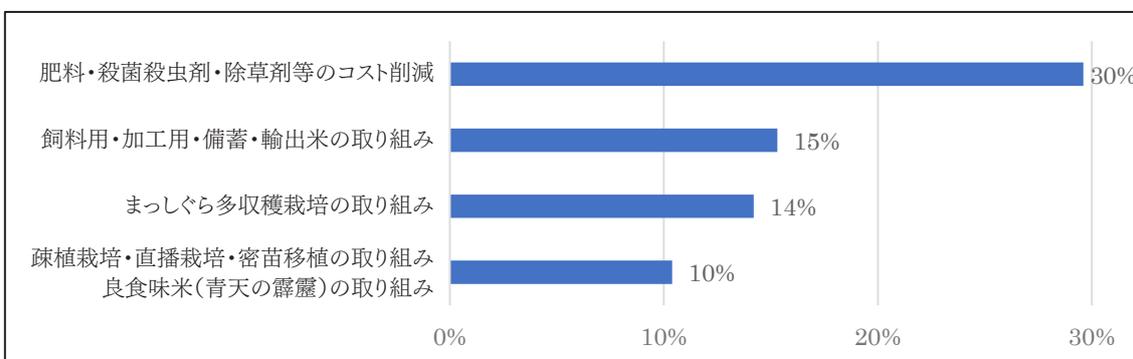
### 【設問】あなたの経営では、次のことが問題になっていますか。



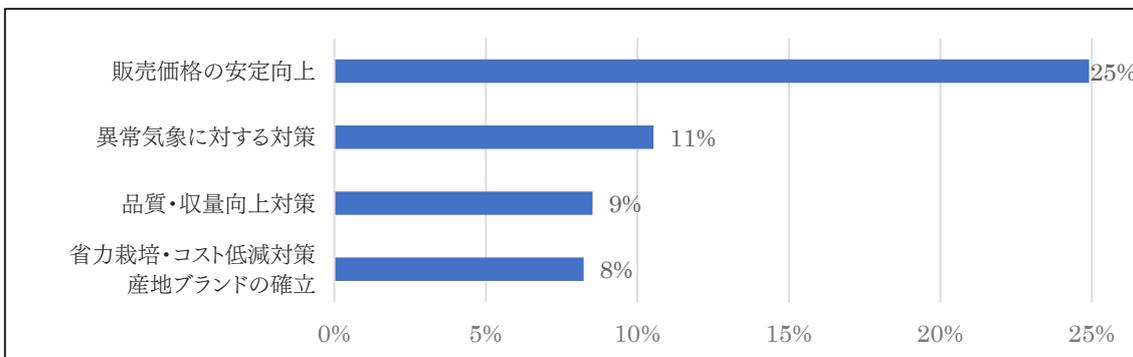
**【設問】 今後必要だと思われる支援について何を期待しますか。(回答の上位4つを抜粋)**



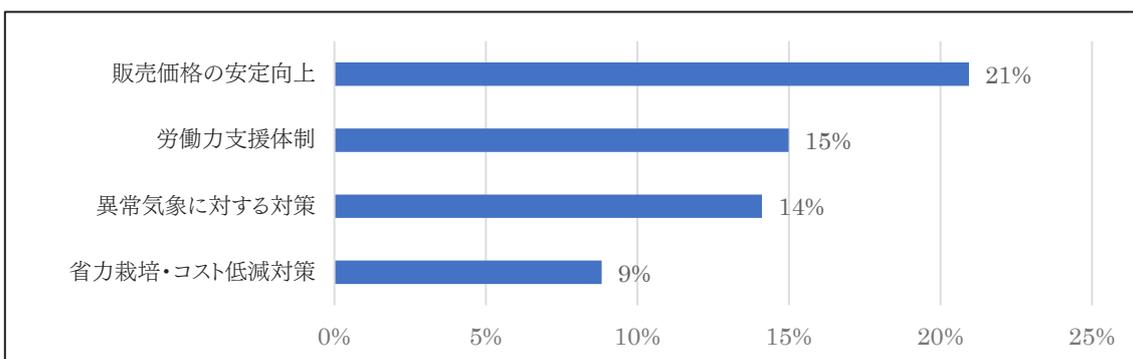
**【設問】 米穀の振興についてお聞きします。(回答の上位4つを抜粋)**



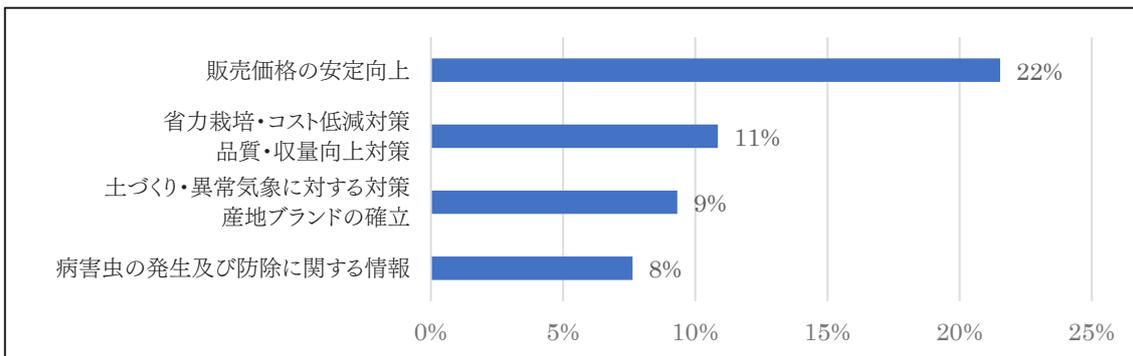
**【設問】 やさい・花きの振興についてお聞きします。(回答の上位4つを抜粋)**



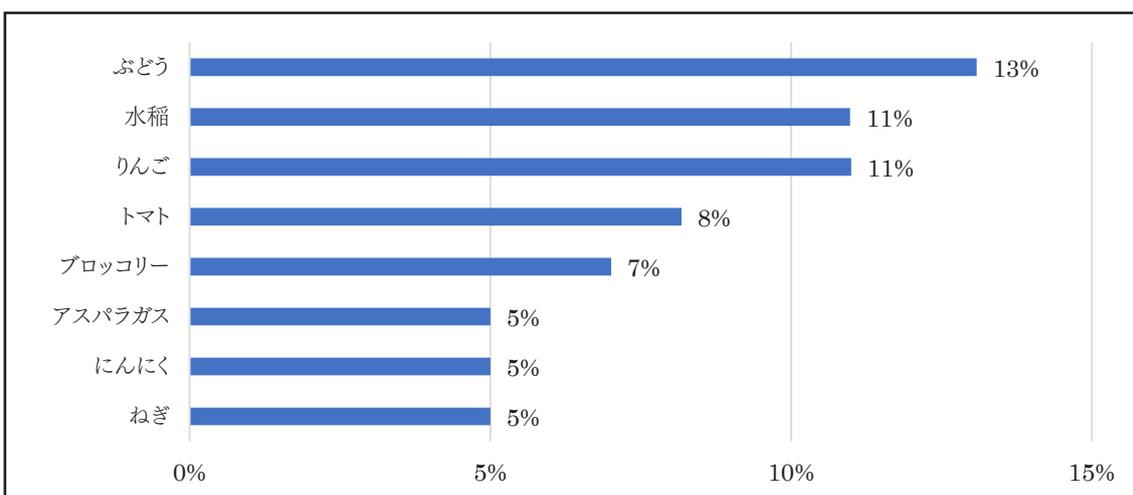
**【設問】 りんごの振興についてお聞きします。(回答の上位4つを抜粋)**



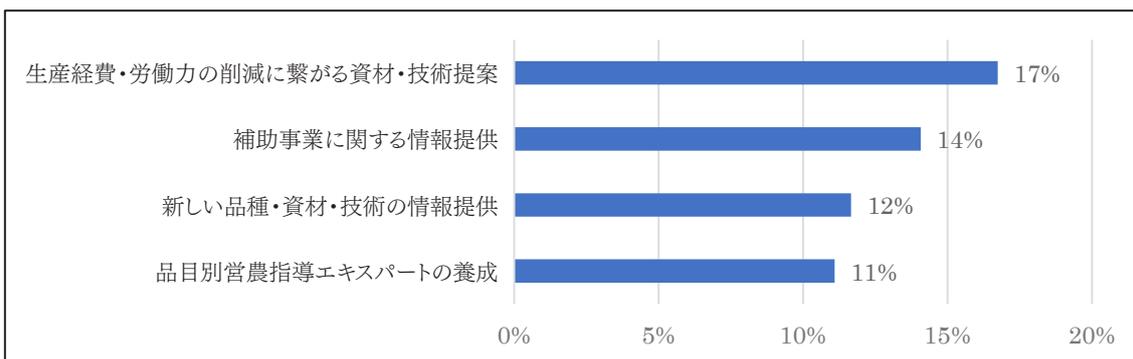
**【設問】 すいか・メロン・ぶどうの振興についてお聞きします。(回答の上位4つを抜粋)**



**【設問】 産地化していくために必要と思われる品目は何ですか。(回答の上位5つを抜粋)**



**【設問】 営農指導事業で強化すべき点についてお聞きします。(回答の上位4つを抜粋)**



**【設問】 地域農業振興やJAの運営に関して、ご意見ご要望があればご記入ください。**

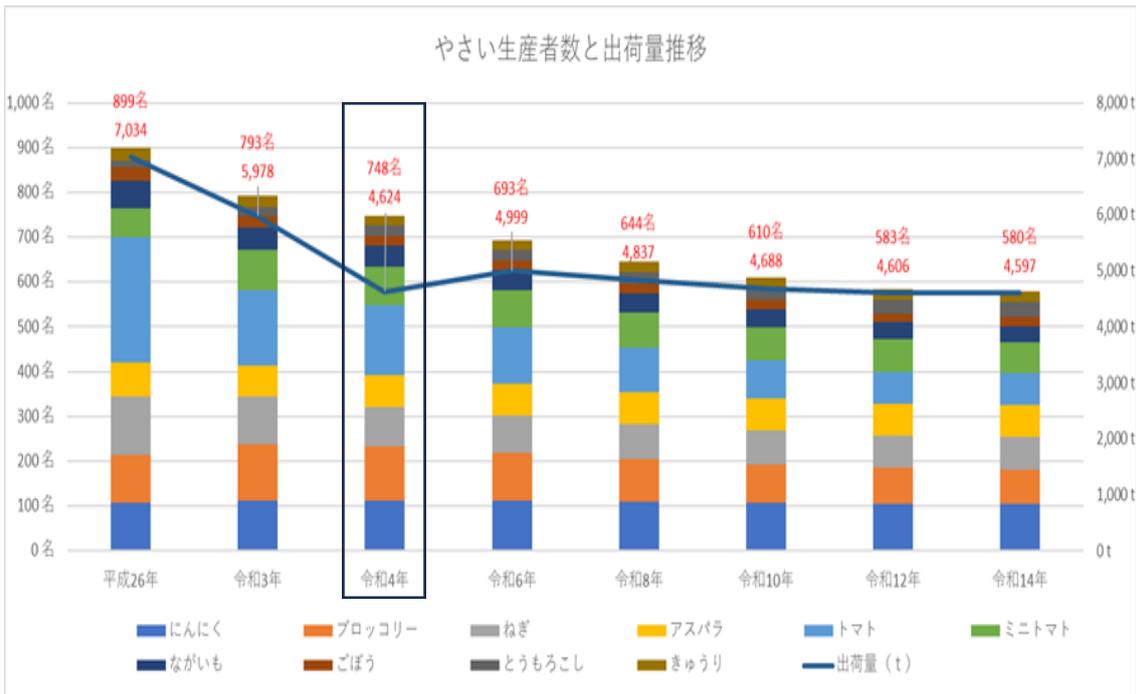
肥料・農薬、ガソリンスタンドの燃料価格など『購買品が高い』という意見や、販売単価が安い・出荷手数料が高いなど『販売価格の安定・向上』に対する要望が多くありました。

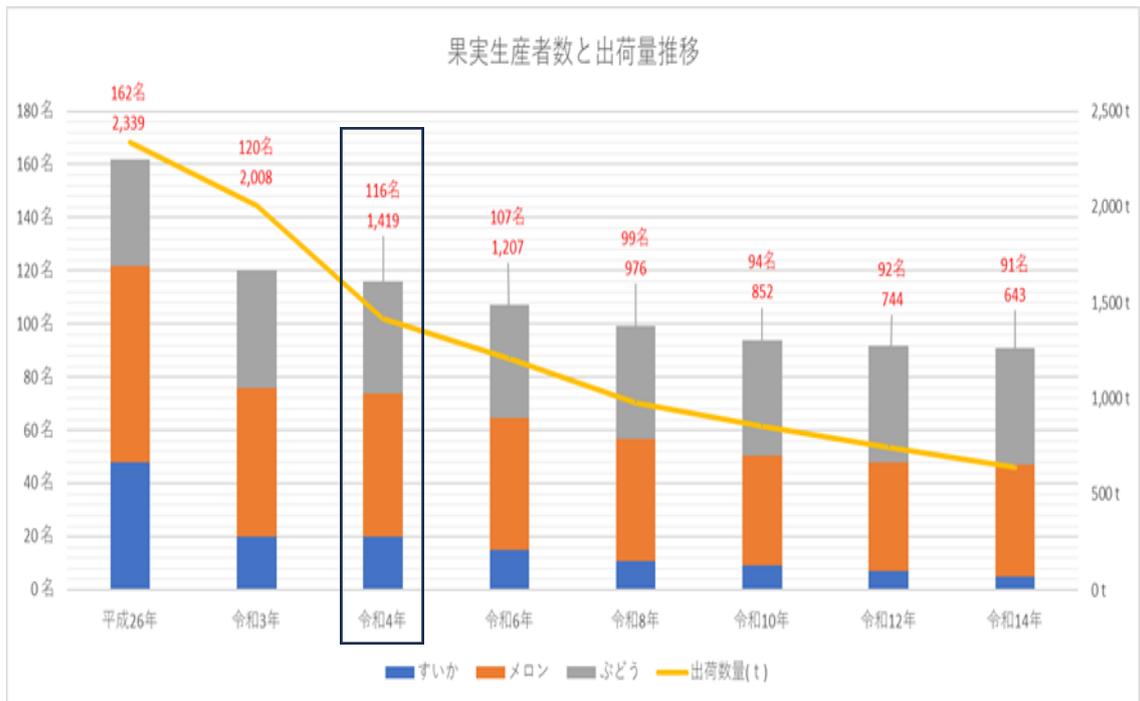
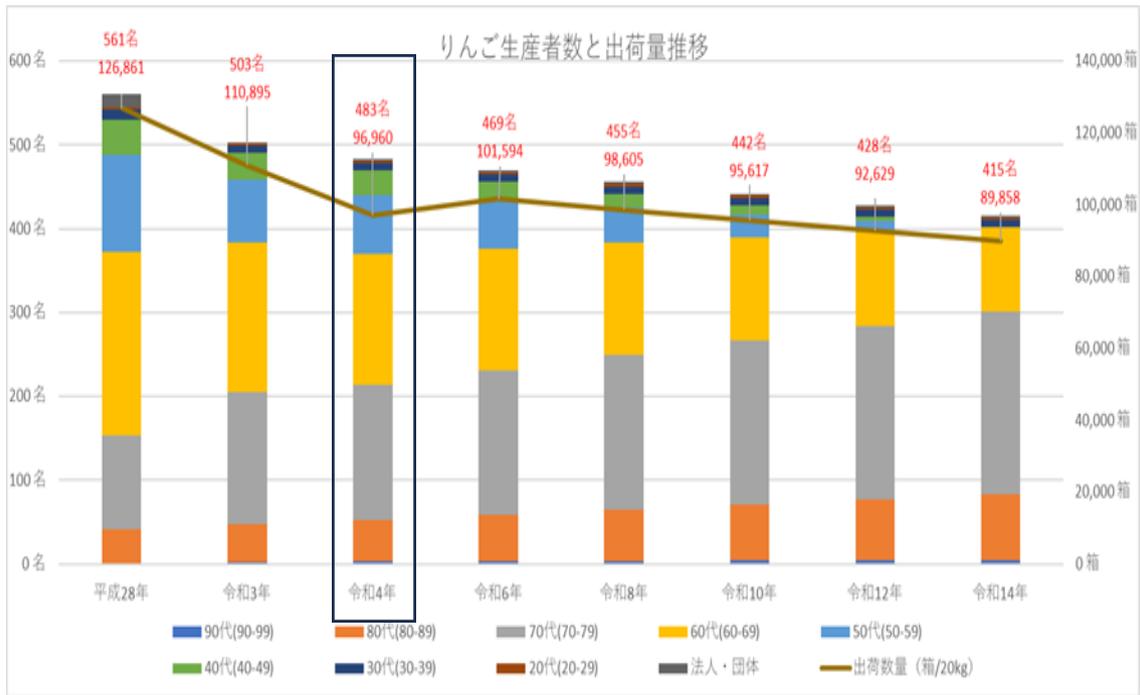
また、JA職員の人員不足にも一定の理解があるものの『営農指導員の巡回・レベル向上』や、購買資材の在庫不足、金融・共済がない事業所は不便など『JAの運営・体制』に対する意見もありました。

# 現状と10年後シミュレーション

生産者数と出荷量は年々減少している。

過去の減少率をもとに今後10年間の見通しについて、令和4年を基準とした令和14年には生産者数で水稲42%、やさい27%、りんご17%、果実24%の減少、出荷量で水稲14%、やさい23%、りんご18%、果実68%の減少と想定されている。





#### 意向調査結果及び10年後シミュレーションからの意向、課題

(1) アンケートの分析からみえる主な意向、課題

「生産経費が高い」・「農業収入が少ない」・「労働力不足」  
 「機械や設備への対応」・「異常災害対策」

(2) 10年後シミュレーションの分析からみえる課題

「農家の高齢化」・「農家数の減少」・「生産（出荷）量の減少」

## 第五次地域農業振興計画 営農ビジョン

管内で農業に従事する組合員の今後3年間における耕作意思は、現状維持が最も多く、次いで経営規模の縮小や中止となっており、生産意欲の低下が懸念されています。

また、昨今の農業を取り巻く環境は、組合員の高齢化や農業者の減少により、生産現場の労働力が不足しているほか、農業資材の高騰等で再生産が儘ならない状況となっています。

先般実施した意向調査では、JA購買品の値下げや農産物の販売価格安定向上、機械設備への補助など多数の意見を頂戴し、地域に根ざすJAとしてこれからの地域農業を維持していくため、「農業所得の向上」「次世代担い手の育成・確保」「労働力対策」を中心に取り組み、

### 地域農業の担い手とともに 活気・魅力あふれる農業の実践 JAは、けっばる組合員を応援します！

を掲げ、未来を見据えた農業・地域振興へ努めて参ります。



弘前大学との第1回「未来創造研究所」会議

# 地域農業振興計画 基本方針

## 営農ビジョンの実現に向けた3つの柱

(方針)



再生産可能な農業所得の確保



担い手の育成と経営基盤の強化



産地の維持と拡大を目指す事業展開

### 1. 再生産可能な農業所得の確保

#### (1) 農産物の販売価格安定向上

- ・各品目における販売力の強化と有利販売の取り組み
- ・安全安心な農畜産物の生産推進

#### (2) 反収安定に向けた対策

- ・近年問題となる異常気象の対応
- ・栽培マニュアルの作成や改良

#### (3) 生産コストの削減

- ・低コストや省力化の組み合わせによるトータル生産コストの削減
- ・にしきた型水稻育苗パイプハウスの推進

## 2. 担い手の育成と経営基盤の強化

### (1)次世代担い手の確保

- ・地域の担い手の掘り起こしと就農支援
- ・栽培や経営の安定に向けた活動

### (2)営農指導員の提案力向上と出向く意識付け

- ・各地区へ指導員を配置し、担い手の良き相談者として活動
- ・育成プログラムや各品目チームによる活動を通じ、指導員を育成
- ・地域の農業者や関係機関へ若手指導員を派遣し、実地研修

### (3)生産組織活動の活性化

- ・わけもの会などによる活動で、垣根を超えた仲間づくり
- ・生産組織部会の再編や新設及び活動支援

### (4)法人化支援

- ・法人化を推進し、強固な経営体を育成
- ・JAの強みである総合力を発揮し、継続的な支援



農家手取り最大化検討会



常勤役員りんご園地巡回

### 3. 産地の維持と拡大を目指す事業展開

#### (1)生産現場の労働力不足対策

- ・無料職業紹介、援農ボランティアやデイワークなど労働力支援の実施
- ・品目ごとの労働力不足対策の実施

#### (2)産地ブランド力の向上

- ・振興作物における付加価値の検討
- ・高品質な農産物の企画販売や実需者との契約販売

#### (3)作付拡大や維持のための支援

- ・振興作物に対するJA独自の各種助成支援
- ・受託作業組織の設立、連携による作業支援

#### (4)持続可能な農業の推進

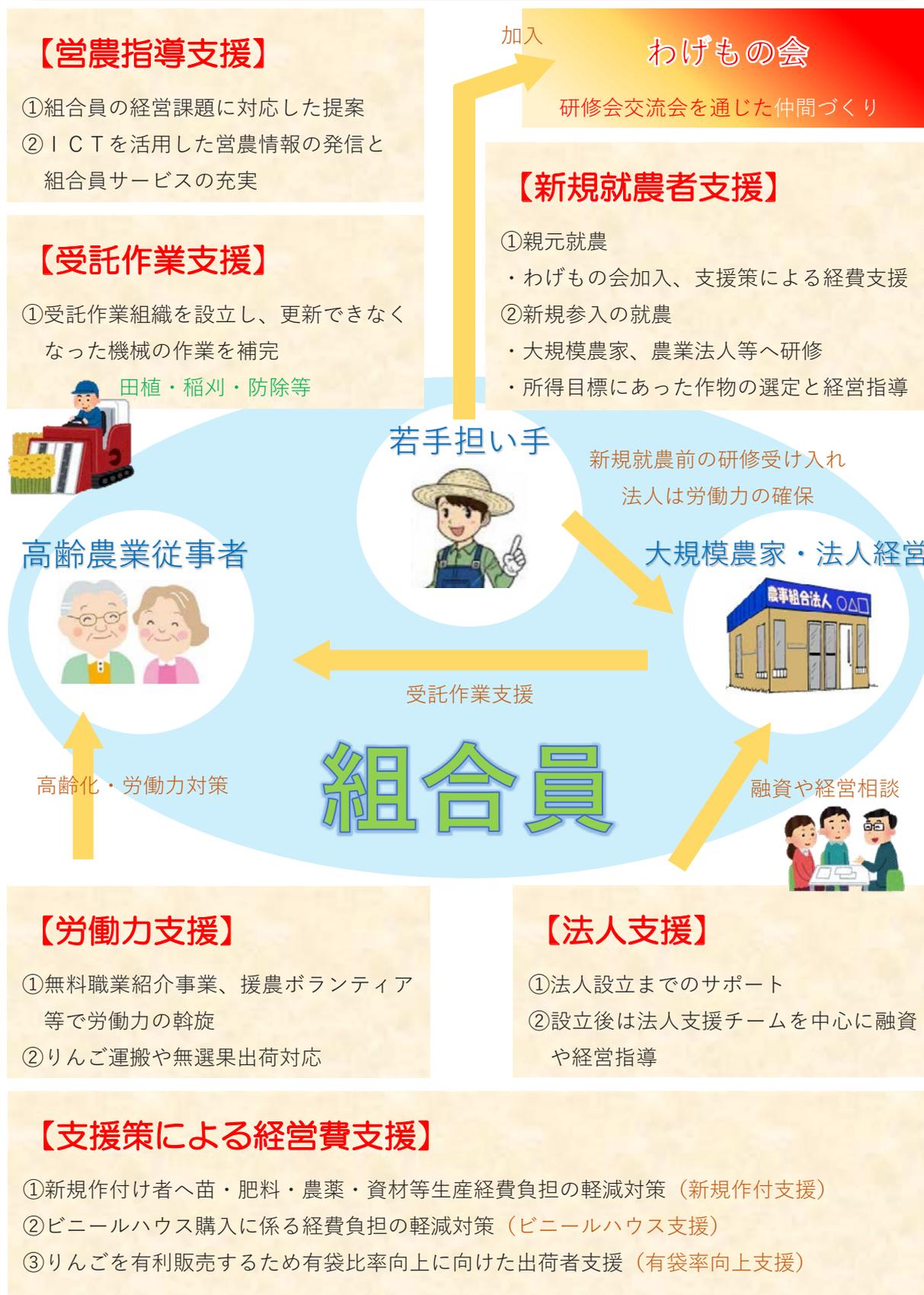
- ・堆肥、緑肥の施用による土づくりの推進
- ・環境調和型農業の実現に向けた全農グリーンメニューの検証

## 振 興 作 物

- |             |   |
|-------------|---|
| 1. 米穀・畜産部門  | 水稻、大豆、小麦、畜産   |
| 2. やさい・花き部門 | にんにく、ブロッコリー、ねぎ、アスパラガス<br>トマト、ながいも、ごぼう、とうもろこし<br>きゅうり、花き 計10品目 |
| 3. りんご部門    | りんご   |
| 4. 果実部門     | すいか、メロン、ぶどう（シャインマスカット）  |

**にんにく、ブロッコリー、ねぎ、アスパラガス、シャインマスカットの5品目は、複合経営を推進するための重点推進作物とします。**

# 組合員所得向上に向けたJA支援体制(フロー図)



# 品目別農業振興方針

## 米穀・畜産部門

### 水 稲

#### 【方 針】

米の消費が減退する中で、主食用米の価格や需給を安定すべく、水田活用米穀（備蓄・加工用・輸出用米）や飼料用米の複数年契約に取り組み、有利販売に努めます。

主力品種「まっしぐら」および新品種「はれわたり」は、安定生産と作付拡大に努め、「青天の霹靂」は生産基準の遵守を徹底し、良食味米生産に取り組むことで県産米ブランドの維持を図ります。

#### 【重点事項】

#### （１） トータル生産コストの削減

- ・①直播、疎植や密苗など栽培技術による労働力や生産経費の削減に取り組み、引き続き省力化につながる技術やスマート農業の普及推進に努めます。
- ・②当JA独自の低コスト基肥一発肥料のほか、大型規格や担い手直送規格を推進し、資材コストの削減を図ります。
- ・③にしきた型水稻育苗パイプハウスの導入を継続します。

#### （２） 米の生産、所得の安定化

- ・①関係機関と連携し、需給バランスのとれた計画生産に取り組むことで価格の安定化を図ります。
- ・②近年の異常気象、特に高温による減収や未熟粒などの品質低下を軽減するため、基本技術の徹底と高温障害対応について、適期講習会の開催や迅速な営農情報の発信による対応を図ります。
- ・③つがるロマン後継にあたる新品種「はれわたり」については、今後の作付拡大を見据え、生産技術の向上と需要の獲得に努めます。

### (3) 機械、施設の更新ができない農業者を支援

- ・①コンバインや乾燥調製施設などを更新できない生産者に対し、一部の作業を請け負うことで離農者を少なくし営農の永続化を目指します。
- ・②受託作業を通じて担い手との接点を強化し、地域農業の受け皿となる経営体への育成や法人化の推進、受託作業組織の設立を目指します。

## 大豆・小麦

### 【方針】

病虫害防除や除草対策を徹底して高品質安定生産に取り組み、有利販売に努めます。

### 【重点事項】

#### (1) 高品質安定生産への取り組み

- ・①肥培管理、病虫害や雑草への対応を徹底し、高品質生産を目指します。

## 畜産

### 【方針】

畜産農家の所得向上、経営安定を目指します。

### 【重点事項】

#### (1) 畜産生産基盤の安定化

- ・①自給飼料増産によるコスト削減を目指します。
- ・②肥育農家の経営悪化を防ぐため、各種事業を通じ経営安定に努めます。
- ・③優良母体の確保による繁殖農家の管理技術向上を図ります。

## やさい・花き部門

### やさい

#### 【方針】

振興作物の「トマト」、「にんにく」、「ブロッコリー」、「ねぎ」、「アスパラガス」を中心に推進し、販売の一元体制の強化と有利販売に努めます。

また、近年多発する自然災害や見通しの出来ない農業経営上のリスク回避と作業労力の改善を図り、各地域の特色ある作物の生産拡大と農業所得の向上を目指します。

#### 【重点事項】

### （１）販売体制の強化

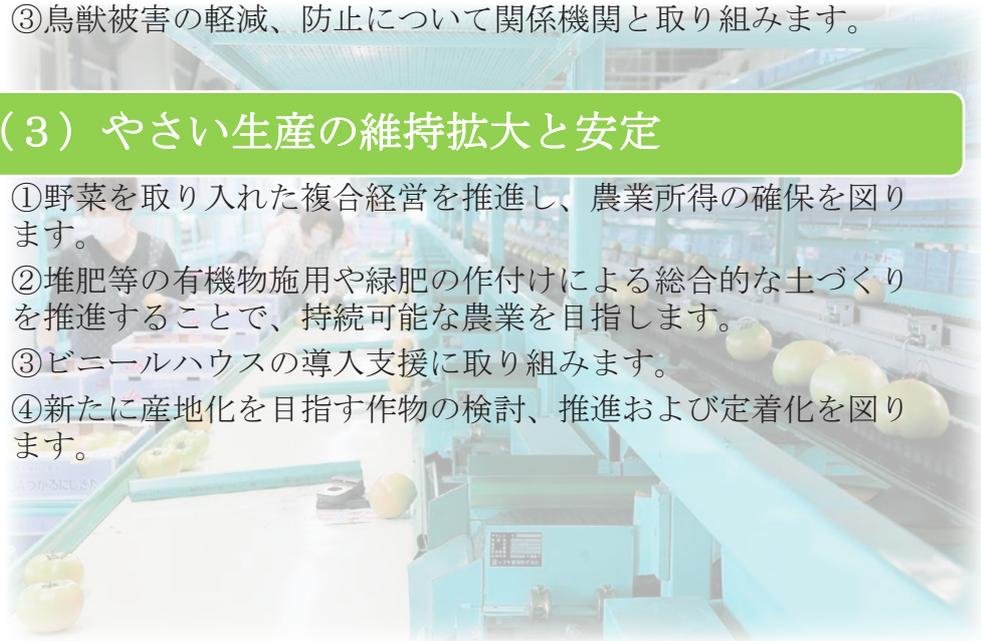
- ・①共選施設の効率化を図るとともに販売の一元化を進め、ロット拡大による有利販売に努めます。
- ・②重点市場や関係先との連携を密に図り、販売力を強化します。

### （２）異常気象に対応した栽培管理技術の確立

- ・①夏期の高温対策として、遮熱資材の普及を推進します。
- ・②自然災害の回避及び被害軽減のため、迅速な情報発信と対応に努めます。
- ・③鳥獣被害の軽減、防止について関係機関と取り組みます。

### （３）やさい生産の維持拡大と安定

- ・①野菜を取り入れた複合経営を推進し、農業所得の確保を図ります。
- ・②堆肥等の有機物施用や緑肥の作付けによる総合的な土づくりを推進することで、持続可能な農業を目指します。
- ・③ビニールハウスの導入支援に取り組みます。
- ・④新たに産地化を目指す作物の検討、推進および定着化を図ります。



## （４）省力化とコスト削減

- ・ ①土壌診断に基づく適正施肥を推進します。
- ・ ②効果的な防除体系の検討と、合わせて農薬コスト削減に取り組みます。
- ・ ③栽培の簡素化などトータル生産コスト削減に結び付く技術を検証します。

## やさい重点推進作物

### 【にんにく】

- ①冬期の収入確保と労力の分散が図られる作物として作付けを推進します。
- ②優良種子の確保や肥培管理試験に取り組み、高品質・安定生産を目指します。
- ③乾燥技術の向上に取り組みます。

### 【ブロッコリー】

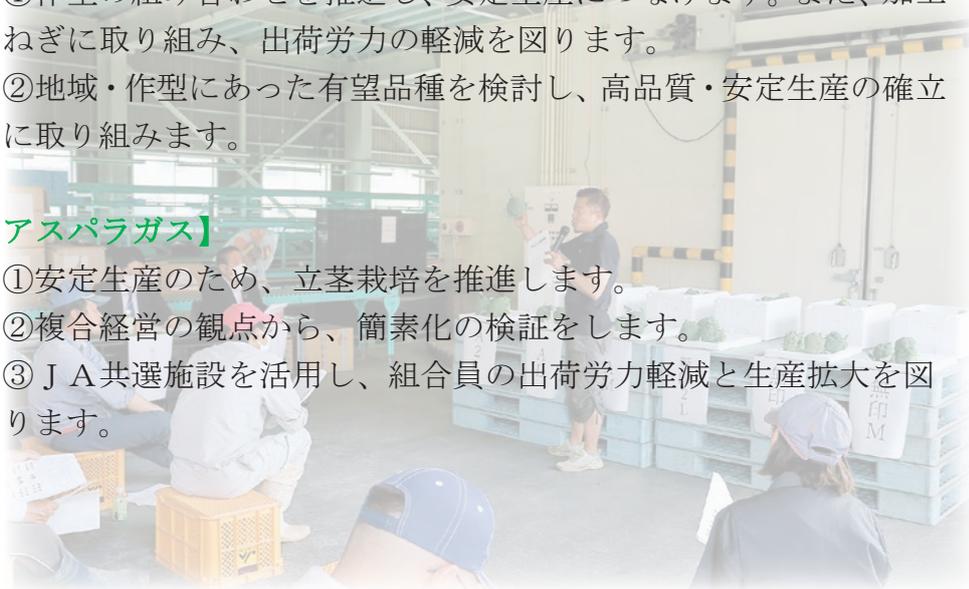
- ①栽培期間も短く、比較的初期経費が抑えられることから水稲転作の有望作物として推進します。
- ②JA共選施設を活用し、組合員の出荷労力軽減と生産拡大を図ります。

### 【ねぎ】

- ①作型の組み合わせを推進し、安定生産につなげます。また、加工ねぎに取り組み、出荷労力の軽減を図ります。
- ②地域・作型にあった有望品種を検討し、高品質・安定生産の確立に取り組みます。

### 【アスパラガス】

- ①安定生産のため、立茎栽培を推進します。
- ②複合経営の観点から、簡素化の検証をします。
- ③JA共選施設を活用し、組合員の出荷労力軽減と生産拡大を図ります。



## やさい振興作物

### 【トマト】

- ①高温障害に対して遮光資材の推進と作型組み合わせによる高温期回避の栽培体系を検証します。
- ②基本技術の普及と迅速な生産情報の発信に取り組みます。
- ③大玉トマトは労力軽減が図れる「Uターン栽培」、ミニトマトは収穫が容易な「斜め誘引栽培」を基本として推進します。
- ④JA共選施設を活用し、組合員の出荷労力軽減と生産拡大を図ります。

### 【ながいも】

- ①土壌病害対策と緑肥を活用した土づくりに取り組みます。
- ②障害に強い品種の選定や試験に取り組みます。
- ③グラスファイバー支柱の推進で作業の軽労化を図ります。
- ④JA共選施設を活用し、組合員の出荷労力軽減と生産拡大を図ります。

### 【ごぼう】

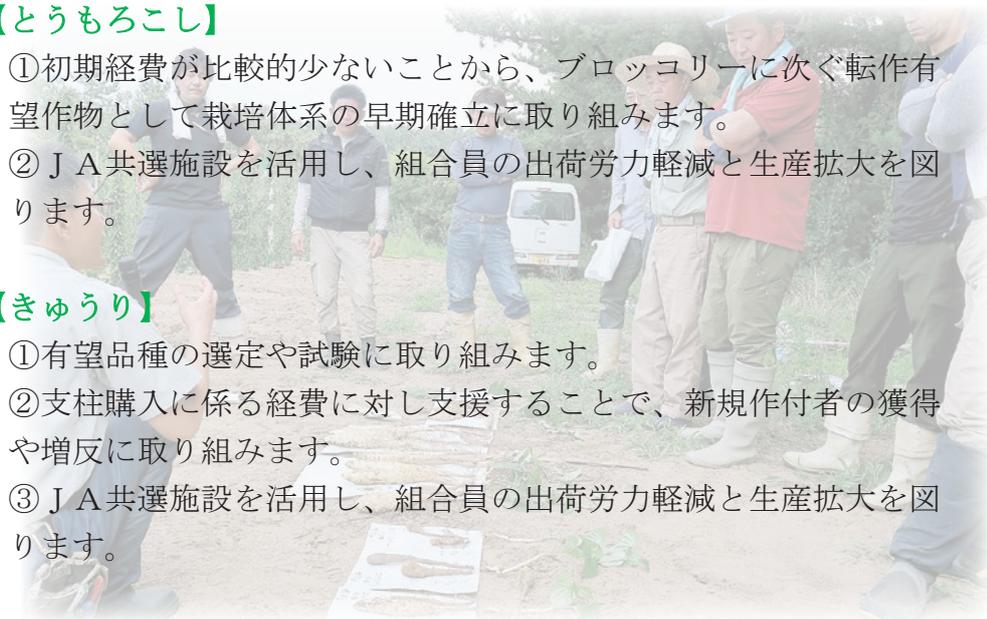
- ①土壌病害対策と輪作体系に取り組みます。
- ②契約栽培面積の拡大に取り組みます。

### 【とうもろこし】

- ①初期経費が比較的少ないことから、ブロッコリーに次ぐ転作有望作物として栽培体系の早期確立に取り組みます。
- ②JA共選施設を活用し、組合員の出荷労力軽減と生産拡大を図ります。

### 【きゅうり】

- ①有望品種の選定や試験に取り組みます。
- ②支柱購入に係る経費に対し支援することで、新規作付者の獲得や増反に取り組みます。
- ③JA共選施設を活用し、組合員の出荷労力軽減と生産拡大を図ります。



# 花 き

## 【方 針】

トルコギキョウを中心とした生産に取り組み、産地としての地位確立に努めます。

## 【重点事項】

### (1) 花き生産の維持拡大と安定

- ・ ①新品種や流行品種の試験及び情報発信に取り組みます。
- ・ ②ビニールハウスの導入支援に取り組みます。

### (2) 異常気象に対応した栽培管理技術の確立

- ・ ①高温対策として遮光資材の積極的な活用を推進します。
- ・ ②講習会の開催により技術向上を図ります。



## りんご部門

### 【方針】

高品質なりんごの安定生産を推進し、系統率向上と有利販売に努めます。また、大きな気象変動による災害リスクへの対応や生産者の労働力不足改善に向けた新技術の検証、生産の効率化を図ります。

### 【重点事項】

#### (1) 販売力の強化

- ・ ①有袋栽培を推進し、合わせてスマートフレッシュを活用した長期販売りんごの取組拡大により、販売単価の底上げを図ります。
- ・ ②着色管理作業が省略できる葉とらず栽培や黄色系品種の取組拡大と有利販売に努めます。
- ・ ③輸出の取扱拡大や、当JA独自のこだわりりんご「満点りんご」等を消費地へ広く発信し、販路拡大につなげます。

#### (2) りんごの品質向上、安定生産

- ・ ①高品質、安定生産に向け、人口授粉やマメコバチの適正管理による結実確保を推進します。
- ・ ②黒星病対策として、気象観測装置を活用した情報発信およびフェロモントラップ調査による害虫発生予察に努めます。
- ・ ③生産費増大に対して、土壌診断に基づく施肥や総合的病害虫管理を推進し、コスト削減を図ります。

#### (3) 気象変動リスクの対応

- ・ ①近年多発する暖地型病害虫に対応した防除暦の作成、生産情報の発信、講習会の開催を通じて、被害軽減に努めます。
- ・ ②病害虫や日焼け、鳥獣害など障害の発生軽減や果実品質低下への対応を検討します。

## (4) 省力化の推進

- ・ ①自家養成苗木、台木の取り組みと高密植わい化栽培の普及推進に努めます。
- ・ ②JAによる園地集荷や無選果取扱いを拡大し、生産者の労力軽減と集荷率向上を図ります。



## 果実部門

### 【方針】

土づくりや適期適正管理の指導を徹底し、多発する異常気象への対応や総合的な病害虫防除対策の徹底によって高品質、安定生産を目指します。

また、軽量野菜やぶどうへ品目転向が見込まれる中で、重点推進作物の「シャインマスカット」の推進を図り、栽培技術向上や販売事業の拡大に努めます。

### 【重点事項】

#### （１）販売力の強化

- ・ ①出荷市場や関係先との連携を密に図り、有利販売に努めます。
- ・ ②各種指導および販売の情報発信により、管内生産者の系統率向上を図ります。
- ・ ③JAつがるにしきたが「産地」として誇れる品目の維持拡大に努めます。

#### （２）果実の品質向上、安定生産

- ・ ①堆肥等の有機物施用や緑肥の作付けによる総合的な土づくりと、適期適正管理を基本とした指導の徹底に努めます。
- ・ ②計画的な輪作による連作障害回避と土壌病害虫対策を図ります。
- ・ ③栽培講習会の開催や巡回指導により、高品質および安定生産を図ります。

#### （３）省力化とコスト削減

- ・ ①土壌診断に基づく適正施肥を推進します。
- ・ ②効果的な防除体系の検討と、合わせて農薬コスト削減に取り組みます。
- ・ ③トータル生産コスト削減に結び付く技術を検証します。

## (4) 気象変動リスクの対応

- ・ ①暖地向けの品種導入や被害軽減資材の検証により、異常気象へ対応を図ります。
- ・ ②鳥獣被害の軽減、防止について関係機関と取り組みます。
- ・ ③ビニールハウスの導入支援に取り組みます。

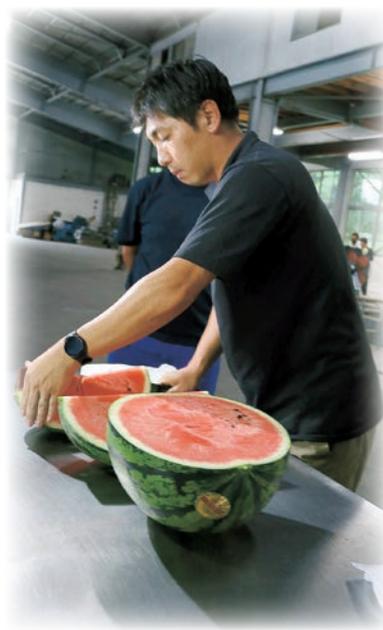
## すいか・メロン

### 【すいか】

- ①高温や炭疽病の耐病性品種及び作型にあった品種の選定を図ります。また、近年問題となっている炭腐病など土壌病害への対策を強化します。
- ②軽労化につながる小玉すいかを推進します。
- ③出荷先市場を集約し、ロット拡大による有利販売に努めます。

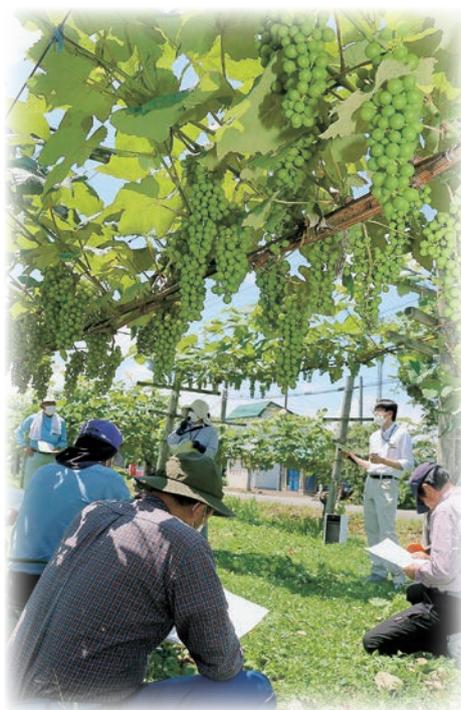
### 【メロン】

- ①高温による萎れや果実の日焼け、排水不良による生育阻害への対応を検討します。
- ②JAごしょつがると連携し、高品質な果実の生産と有利販売に努めます。



## ぶどう、重点推進作物【シャインマスカット】

- ① スチューベンを主力品種として高品質、安定生産を図るとともに、重点推進作物【シャインマスカット】の栽培技術向上を目指します。
- ② シャインマスカットは販売体制を構築し、生産量の拡大と有利販売に努めます。



# 支店別地域農業振興方針

## ● つがる白神支店管内 ●

### 【振興作物】



アスパラガス・にんにく・ブロッコリー・シャインマスカット・すいか・メロン

### 【地域の現状と農業振興方針】

鯉ヶ沢管内の主力作物は「水稻・すいか・アスパラガス」であるが、農家の高齢化をはじめ、依然として後継者や農業従事者の不足、機械・施設更新などが儘ならないことから、限界を超えた大規模農家への農地集約、中小農業者の耕作面積縮小や離農が増加の一途をたどっています。

主力作物を核とし、将来性のある新たな作物や消費者に求められる物を模索して、豊かな地域農業を目指し、関係機関と連携して産地の維持・拡大に取り組んでまいります。

### 【担い手の育成・地域活性化方針】

町や関係機関と連携し、若手担い手や新規就農者が安心して農業経営に取り組み、継続できるよう情報発信や各種講習会などを催し、地域農業の発展に努めます。

### 【管内地域農業の未来像（10年後のあるべき姿）】

J Aの振興作物を中心にこの地域ならではの産地を形成・維持し、老若男女に魅力ある農業、そして儲かる農業の実現で、安心安定した生活が送れる姿を目指します。



## ● 深浦事業所管内 ●



### 【振興作物】

トマト・アスパラガス・ねぎ・にんにく・シャインマスカット

### 【地域の現状と農業振興方針】

水稲では、大規模農家へ農地が集約されつつあるが、大半が親子経営であり、親がけん引している状況であります。現在の農業情勢で、今後若い世代が農業を継承するかは不透明です。畑作では、高温障害や鳥獣害により「トマト・アスパラガス・ねぎ」の主力品目の収量、収入減で農家負担が大きく、再生産への意欲低下が懸念されます。

異常気象に対応できる新たな品目での複合経営も検討しながら、トマトをはじめ地域にあった作物を推進し、農家経営の維持に努めてまいります。

### 【担い手の育成・地域活性化方針】

巡回や指導を通じて若手生産者の農業意欲・知識向上を促してスキルアップできるように育成します。また、新規就農者の取り組みを後押しし、農業の経営基盤を構築して、指導員及びベテラン農家の連携で地域活性化を図ります。

### 【管内地域農業の未来像（10年後のあるべき姿）】

誰でも農業で高所得を維持できる生産性の確立を目指します。また、講習会や関係機関との連携により、生産技術の向上や生産意欲をもってもらえるよう指導員のレベルアップを図ります。そのほか、農業体験や食育を通じた地域づくり、農業経営のアピールを実施し、新規移住者など農業従事者の確保を目指します。



## つがる支店管内

### 【振興作物】



ブロッコリー・トマト・ミニトマト・ねぎ・トウモロコシ・シャインマスカット・りんご・メロン

### 【地域の現状と農業振興方針】

特に水稲が主力の当管内は、農業者の高齢化、後継者不足などによる農業従事者の減少と、農業機械の更新が課題となっており、合わせて物価高騰によるコスト高、温暖化の影響による農作物の品質低下、収入減で農家経営はひっ迫しています。畑作についても同様で、豪雨や高温障害により減収や品質低下を余儀なくされています。

取扱品目は多岐にわたりますが、異常気象に打ち勝つ対応や水稲+αの複合経営を推進し、農家の経営安定を目指します。また、販売を起点とした農産物の生産拡大を図り、食の信頼確保と多様化する消費動向など念頭に、JAによる統一ブランドの確立や、つがる市ブランドの強化、新たな取り組みも模索し、特色ある地域性を活かした産地づくりを展開します。

### 【担い手の育成・地域活性化方針】

新規就農者への巡回や若手担い手向けの講習会等を開催しながらJAとの交流を深め、次世代の育成と支援に努めます。また、栽培技術のレベルアップや農業人口、地域への定着を高める取り組みを関係機関と連携し、地域農業の活性化につなげます。

### 【管内地域農業の未来像（10年後のあるべき姿）】

地域農業の中心となる大規模農家をはじめ、農地の集約化や効率化を進め、それぞれの経営プランに合わせた営農のあり方を提案し、主要品目の生産量維持に努めることで緑豊かな産地の継続を目指します。



## 富蔞事業所管内



ながいも・にんにく・ごぼう・ねぎ

### 【振興作物】

### 【地域の現状と農業振興方針】

水稻では、後継者がいないことから離農する農家が増えているものの、現状は農地の受け皿となる農家がいるため耕作放棄地は増えていません。しかしながら、受託面積の限界も迫っており、受け手農家への支援が課題です。畑作では、近年の自然災害による収穫量の落ち込みで、作付体系の変更など対応策の検討が課題となっています。

つがる市の特産品にJA独自の付加価値を見出し、高品質で安全安心な農産物を届けることで産地としての信頼性を高めてまいります。

### 【担い手の育成・地域活性化方針】

農業研修や現場での経験を積み重ね、実践的な技術や知識を身につけてもらえるよう担い手を支援します。また、先進技術の導入や農業者の技術力向上支援のほか、肥料や農薬の適切な使用など、生産性を向上させる取り組みを推進し、地域農業の活性化につなげていきます。

### 【管内地域農業の未来像（10年後のあるべき姿）】

関係機関と連携し、地域の風土や特産品を活かした地域ブランドが創出され、魅力が高まることで農業を通じた地域振興が促進される姿を目指します。そのために地域農家との連携を密にし農家とJAが一丸となって地域農業の発展に取り組めます。



## 鶴翔支店管内

### 【振興作物】



りんご・ぶどう（シャインマスカット）・きゅうり

### 【地域の現状と農業振興方針】

農業従事者の高齢化、雇用作業員の労働力が不足し、農機・設備の更新が問題となっています。生産現場の労働力確保と省力化への対応、合わせてJA施設利用における農家の利便性向上が課題です。

温暖化の影響による農作物の病虫害、生産不良などの対処法や、高品質生産栽培指導により有利販売を推進し農家所得の向上を図ります。また、省力化を取り入れた栽培指導で経営面積の維持拡大を図り、JAが誇る産地の形成に努めてまいります。

### 【担い手の育成・地域活性化方針】

研修会、営農相談などを通じ、若手後継者とJAとの交流や、後継者相互の交流も図り担い手の育成に努めます。また、若手生産者が中心となる地域農業の活性化を推進します。

### 【管内地域農業の未来像（10年後のあるべき姿）】

生産における労働力の確保、省力化はもとよりJA施設についても農家の利便性が向上した体制が構築され、出向く営農指導の充実と有利販売による所得向上が期待できる、活気に満ち溢れた地域を目指します。



## 津軽北部支店管内



トマト・ブロッコリー

### 【振興作物】

### 【地域の現状と農業振興方針】

水稲を中心に複合経営を推進しているものの、農家の高齢化や後継者不足、機械・施設の老朽化などの問題が重なり、農業者の減少が起っています。

引き続き、水稲を中心に振興作物「トマト・ブロッコリー」の作付けを推進し、農業経営の安定化と所得増大を目指してまいります。

### 【担い手の育成・地域活性化方針】

関係機関と連携を図りながら、今後の地域農業を担う若手生産者の掘り起こしと、JAとの関係性を強化するための交流や情報交換など積極的に取り組み、次世代リーダーの育成や地域の活性化に努めます。

### 【管内地域農業の未来像（10年後のあるべき姿）】

若手や担い手が儲かる農業の実現で、安定した産地を形成し、生産者誰もが満足する所得を得られる魅力ある地域農業の姿を目指します。



# 令和8年度作物別目標

単位【面積：ha 数量：t、頭(牛)、千本(花き)、元箱(りんご) 反収：kg】

作物名	令和5年度実績（見通し）			第五次地域農業振興計画目標 （令和8年度）		
	面積	数量	反収	面積	数量	反収
米	7,583	37,168	490	7,583	41,650	549
大豆	1,749	3,077	176	1,749	2,528	145
小麦	91	145	160	91	181	200
牛	—	260	—	—	260	—
にんにく	55	318	583	54	338	622
ブロッコリー	63	318	508	67	446	666
ねぎ	43	700	1,643	41	821	2,011
アスパラガス	41	81	200	41	100	248
トマト	19	1,305	6,762	18	1,478	8,257
ミニトマト	6	212	3,317	6	273	4,333
ながいも	39	812	2,104	36	840	2,360
ごぼう	34	850	2,500	35	850	2,429
とうもろこし	8	46	565	10	101	990
きゅうり	2	123	6,856	2	119	6,611
花き	4	665	—	4	700	—
りんご	—	285,000	—	—	355,000	—
すいか	33	1,557	4,718	31	1,400	4,516
メロン	19	363	1,939	18	426	2,407
シャインマスカット	2	5	282	2	12	532
スチューベン	13	145	1,115	13	150	1,154

# 作物別経営試算表（税込）

※10a当たり

作物名	収量 (kg、本)	単価 (円/kg、本) 交付金含む	販売金額 +交付金 (千円)	経営費 (千円)	所得額 (千円)	労働時間 (時間)
J A米まっしぐら	660	180	119	83	36	30
水田活用米穀（備蓄米）	660	176	116	83	33	30
大豆	150	527	79	47	32	3
小麦	240	269	65	41	24	3
にんにく（露地）	800	1,211	969	694	275	216
ブロッコリー	750	411	308	256	52	38
ねぎ（露地）	3,000	291	873	525	348	242
アスパラガス（立茎3年目）	1,000	947	947	452	495	194
トマト	9,000	315	2,835	1,874	960	707
ミニトマト	6,000	643	3,858	2,054	1,804	1,160
ながいも	3,000	252	756	529	228	130
ごぼう	2,700	139	375	238	137	48
とうもろこし	1,050	260	273	204	69	18
きゅうり	6,650	280	1,862	1217	645	755
トルコギキョウ	22,000	152	3,337	1,598	1,739	793
りんご（無袋ふじ）	2,700	287	775	443	332	209
すいか（露地）	3,150	183	576	375	201	153
メロン（雨除）	2,070	433	896	593	283	151
シャインマスカット	1,260	1,564	1,971	633	1,338	301
スチューベン	1,800	456	821	436	385	202

※①上記の表は、県が作成している経営指標を基にJ Aの実態に合わせて作成しました。

②経営費は、種苗費・肥料費・農薬費・動力光熱費・資材費・作業委託費・流通経費が含まれています。

③交付金は産地交付金・営農継続払が含まれています。

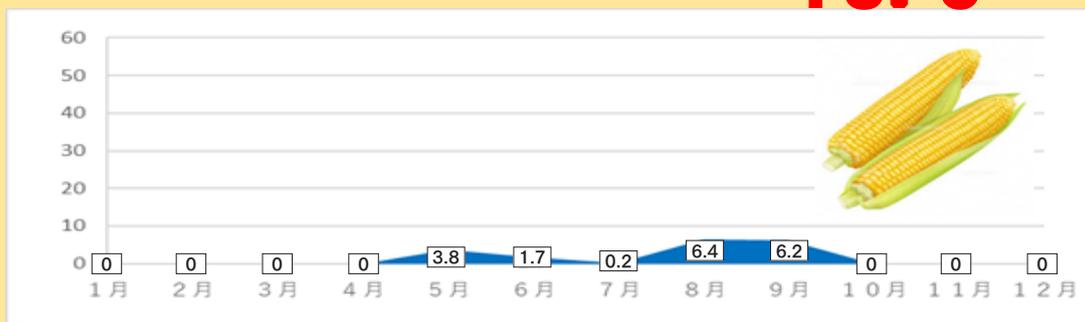
④小麦・大豆は、作業委託による試算となっています。

# 作物別労働時間

とうもろこし

労働時間 (10a 当たり)

**18.3** 時間

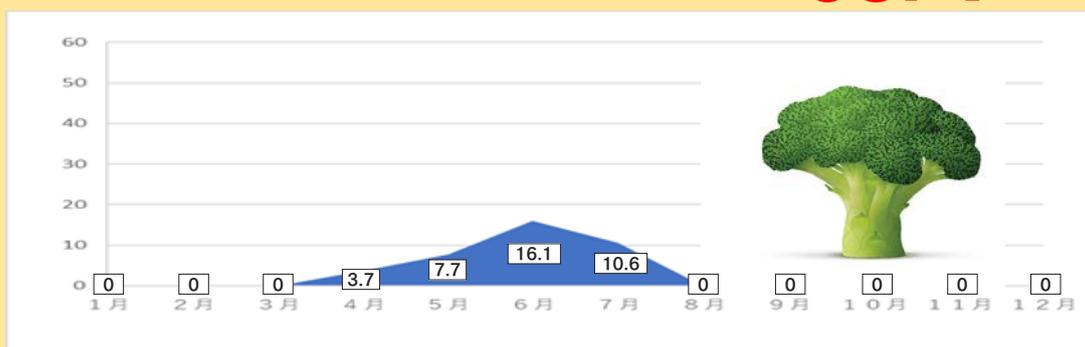


イネ科植物で連作障害になりにくいことから輪作体系に組みやすく、労働時間も少ないことから他の作物と組み合わせやすい作物です。雑草対策が重要になります。

ブロッコリー (春)

労働時間 (10a 当たり)

**38.1** 時間

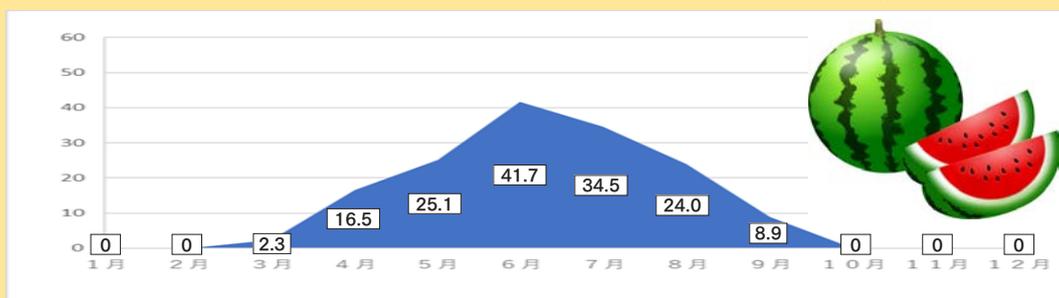


盆前に収入が見込めます。比較的他の作物と組み合わせやすい作物です。

すいか (露地)

労働時間 (10a 当たり)

**153** 時間



作業は5月～8月に集中しますが、盆以降は収穫量も減少し労働時間も少なくなるため、ねぎ(露地)などの組み合わせると労働力が平準化されます。

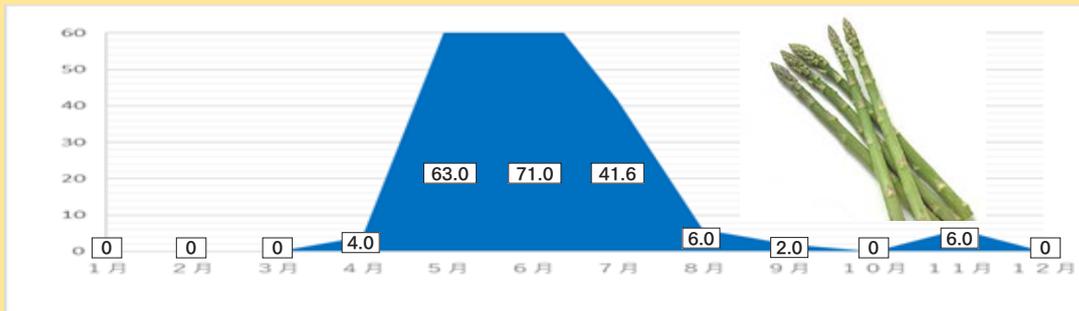
## メロン（雨除）

労働時間（10a 当たり）**151.1**時間



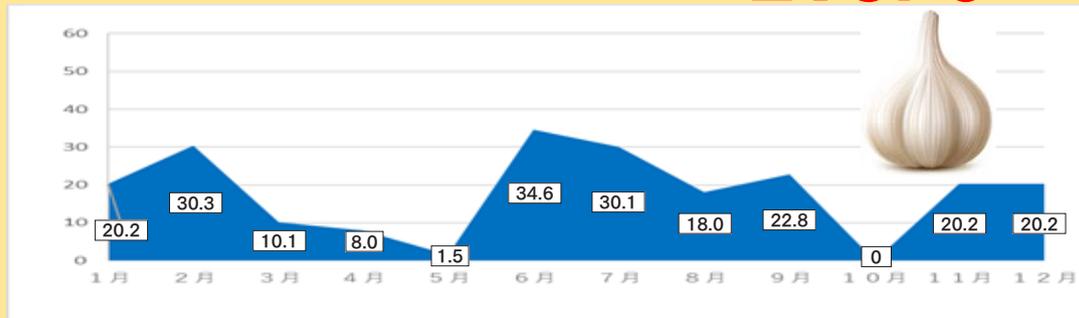
労働力のピークは6月の整枝作業で、盆以降は収穫量も減少し労働時間も少なくなるため、ねぎ（露地）などと組み合わせると労働力が平準化されます。

アスパラガス（立茎3年目）労働時間（10a 当たり）**193.6**時間



立茎栽培にすることで収穫期間が長くなり労働力が分散されます。一度定植すると複数年収穫でき、且つ軽量作物であるため、定年退職者などに最適な作物です。

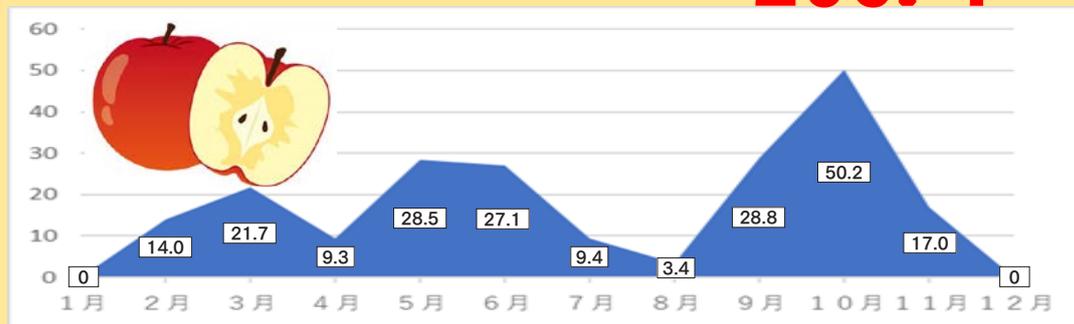
にんにく（露地）労働時間（10a 当たり）**216.0**時間



12月～3月の農閑期に出荷調整作業をすることで、労力分散と冬の収入源になり、水稲と組み合わせることで労働力が平準化されます。

### りんご（無袋）

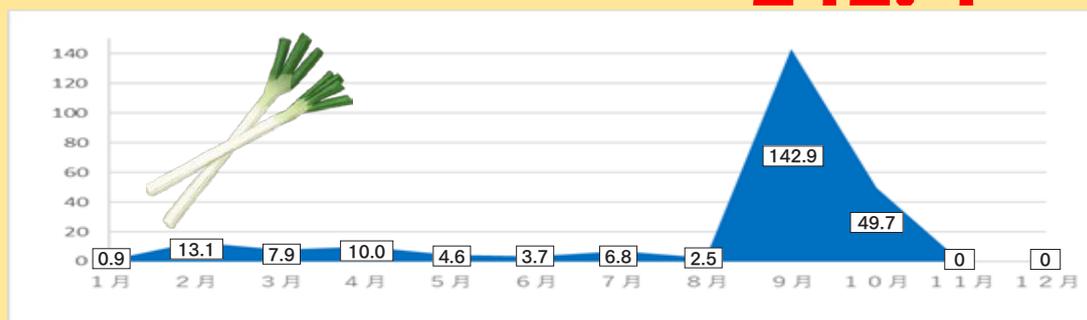
労働時間（10a 当たり）**209.4**時間



6月の実すぐり作業と9月～11月の着色管理・収穫作業に労力が集中します。品種の適正化と、摘果剤・摘葉剤を利用することで労力分散が図れます。

### ねぎ（露地）

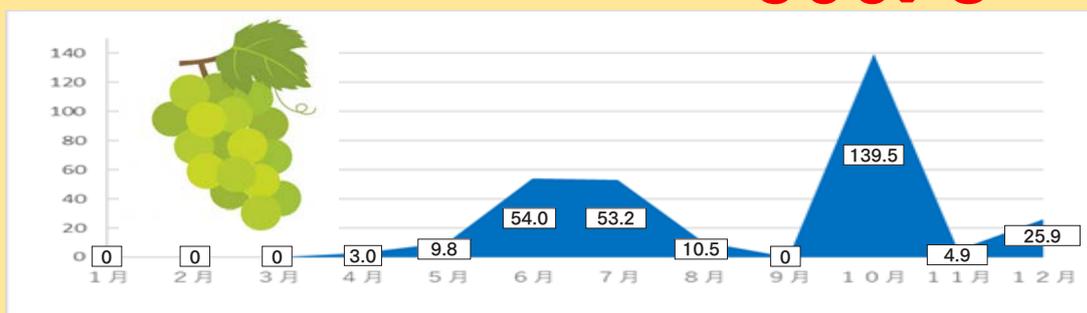
労働時間（10a 当たり）**242.1**時間



9月以降の収穫・出荷調整作業に労力が集中しますが、業務用加工ねぎの取り組みで労力の軽減が可能です。アスパラガス・すいか・メロンと組み合わせやすい作物です。

### シャインマスカット

労働時間（10a 当たり）**300.8**時間



水稲育苗後のハウスを有効活用することで高品質生産に繋がり、稲刈り後に収穫はじめとなるため水稲との組み合わせで労働力が平準化されます。

ここからはグラフ縦軸の時間が異なりますので、「注意」をご覧ください。

## トマト

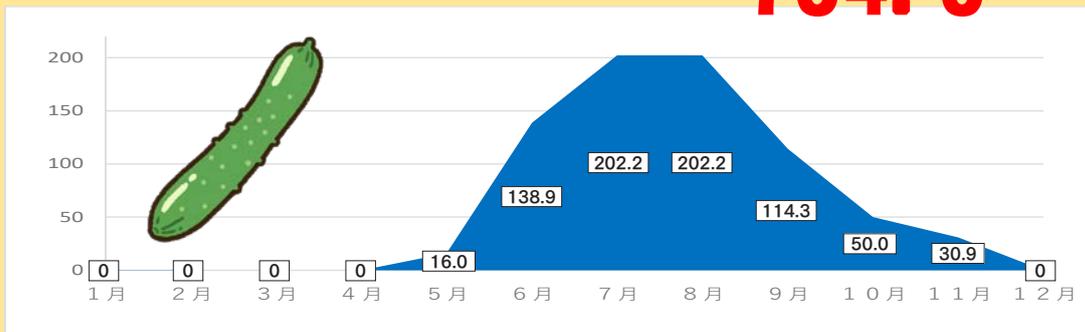
労働時間 (10a 当たり) **707.1** 時間



水稲と組み合わせて育苗ハウスを有効活用し6月に定植することで、トマトの単価が高くなる9月以降の出荷が可能です。

## きゅうり

労働時間 (10a 当たり) **754.5** 時間



7～8月に収穫作業が集中しますが、りんごと組み合わせることで労働力が平準化されます。また、共選のため選果作業の労力が大幅に削減できます。

## ミニトマト

労働時間 (10a 当たり) **1,160.3** 時間



果実が小さいため収穫に労力集中しますが、大玉トマトと比較し病気に強く単価も安定しています。また、共選のため選果作業の労力が大幅に削減できます。